部局•室課	交通政策局地域交通・新幹線政策室	班∙係	新幹線政策担当
TEL(直通)	076-444-8902		

KPI番号	81										
KPI名	北陸新草	北陸新幹線金沢・敦賀間の開業									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	-	-	-	-	-	-	R6年3月 16日に開 業	R5年度末 までの開 業	ı		
評価指標動 向の説明	•令和6年	・令和6年3月16日に金沢・敦賀間が開業した。									
目標達成の 見通し	既に達成	ţ									
目標達成の 見通しの 判断理由	•令和6年	3月16日 <i>の</i>	北陸新幹	線金沢·敦	賀間が開う	美したことか	ら「既に達	成」と判断	∪t=。		
目標達成に向けた課題											
今後の 取組み											

部局·室課	土木部都市計画課	班•係	新幹線・駅周辺整備係
TEL(直通)	076-444-4564		

KPI番号	82									
KPI名	富山駅周	富山駅周辺の歩行者通行量								
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
	36, 246人	34, 947人	34, 950人	25, 509人	38, 663人	37, 290人	40,887人	38,000人	107. 6%	
評価指標動 向の説明	症の影響	・北陸新幹線開業(H27.3)後は横ばい傾向であったが、令和2年度に新型コロナウイルス感染 症の影響により前年度を下回った。 ・コロナ禍からの回復により増加傾向となり、令和3年度及び5年度は目標値を超える値となった。								
目標達成の 見通し	達成可能	Ė								
目標達成の 見通しの 判断理由	商業エリア	にオーバー 7が開業す。 でいること	るなど、連絡	続立体交差	事業や区	画整理事業	きと連動した			
目標達成に向けた課題		・連続立体交差事業および区画整理事業が円滑に進捗するよう、引き続き、関係者と調整を図 る必要がある。								
今後の 取組み	・円滑に整	張備を進めら	られるよう訓	悪する。						

部局•室課	土木部道路課	班∙係	計画係
TEL(直通)	076-444-3319		

KPI番号	83									
KPI名	改良済み	改良済みの道路延長								
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
進捗状況	2, 210. 7km	2, 213. 7km	2, 216. 1km	2, 219. 0km	2, 218. 0km	公表時期未定	公表時期未定	2, 217. 9km	_	
評価指標動 向の説明	・道路の改	道路の改良済み延長は伸びており、目標を達成した。								
目標達成の 見通し	既に達成	ţ								
目標達成の 見通しの 判断理由	・既に目標	傾に到達し	ンた。							
目標達成に向けた課題		・道路整備には、用地取得や工事実施等において地元住民の理解・協力が不可欠であること から、地元住民や関係者と十分調整を図り、事業を円滑に進めることが重要である。								
今後の 取組み		き、地元住			ごに改良済 を図り、着:					

部局•室課	土木部道路課	班•係	橋りょう係
TEL(直通)	076-444-3321		

KPI番号	84										
KPI名	耐震対策	耐震対策を実施した橋梁数(第1次緊急輸送道路)									
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況		0橋	0橋	1橋	2橋	3橋	3橋	5橋	60. 0%		
評価指標動 向の説明	平成29年度までに、耐震性能3(落橋・倒壊を防止するレベル)の耐震化が完了したことから、次の段階として、耐震性能2(速やかな機能回復が可能な性能を目指すしベル)の耐震化について、第1次緊急輸送道路上の橋梁の対策を推進する。										
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	想定以上(カ」と判断	に費用を要 した。	しているた	め、予算を	確保し進担	歩を図ること	≤が必要で	あることかり	ら、「要努		
目標達成に向けた課題	想定以上	想定以上に費用を要しているため、予算の確保に努め、着実に実施していく必要がある。									
今後の 取組み	関係機関の施していく	との協議を	着実に進め	うるほか、必	必要な事業	費を確保し	、橋梁の耐	対震対策を	着実に実		

部局•室課	土木部港湾課	班∙係	計画係
TEL(直通)	076-444-3336		

KPI番号	85									
KPI名	伏木富╽	伏木富山港の外貿コンテナ取扱個数								
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
進捗状況   	75, 138TEU	72, 611TEU	73, 467TEU	64, 790TEU	68, 547TEU	70, 731TEU	67, 975TEU	103, 600TEU	65. 6%	
評価指標動 向の説明	前の水準 なお、R5	・世界的な新型コロナウイルス感染症流行の影響などにより一時的に減少したが、R4はコロナ前の水準まで回復した。 なお、R5はR4と比較すると減少しているが、R5.5から国際フィーダー航路が就航しており、内 質を含めたコンテナ取扱個数は増加している。								
目標達成の 見通し	達成が困	]難								
目標達成の 見通しの 判断理由	年以降回	・令和2年は新型コロナウイルス感染症等の影響もあり外貿コンテナ取扱個数が減少し、令和3年以降回復の兆しはあるものの、ロシアへの経済制裁による海外経済等の動向が不透明であり、近年の動向から推測した場合、目標達成の見通しが大変厳しいため、「達成が困難」と判断した。								
目標達成に向けた課題	・他港利用 る。	・他港利用の県内・隣県企業のほか、中京圏などの太平洋側からの集荷促進を図る必要がある。								
今後の 取組み	・港湾機能 増加を目打	ミのさらなる 旨す。	強化に加え	₹、ポートt	 z—ルスの打	推進などに	より、外貿	コンテナ取	扱個数の	

部局•室課	交通政策局航空政策課	班•係	航空政策係
TEL(直通)	076-444-4510		

KPI番号	86										
KPI名	富山空港	富山空港国内・国際路線(チャーター便含む)の利用者数									
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況	563, 672 人	573, 120 人	545, 233 人	67, 136 人	100, 050 人	251, 509 人	370, 524 人	引き上げる	-		
評価指標動 向の説明	平成27年3月の北陸新幹線開業の影響による富山-羽田便の利用者数の減少も徐々に下げ 止まりを見せていたが、新型コロナ感染拡大等の影響により、令和2年度から旅客需要が急激 に低下した。令和5年度においては、新型コロナの感染が落ち着いたことや旅行需要の回復、 国際線の一部運航再開もあり、利用者数が戻りつつある。										
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	隣県等の 経由の乗り けては、臨	国内線は旅客需要の回復により、利用者数が戻りつつある。西日本エリア(四国・九州)及び近隣県等の旅客需要の掘り起こしなどに取り組んできた結果、利用者数が伸びているため、羽田経由の乗継利用など更なる旅客需要を創出し、達成可能と考える。国際線の定期便再開に向けては、臨時便・チャーター便が運航されるなどの動きはあるものの、今後も継続的な交渉が必要なことから、現段階においては「要努力」とした。									
	点対象とし ど、旅客需 国際線につ 交渉してい	国内線については、航空会社との包括連携協定(令和4年3月)に基づき、西日本及び札幌を重点対象としたプロモーションや羽田経由での乗継ぎ利用の促進、搭乗キャンペーンの実施など、旅客需要を確実に捉え、新たな旅客需要を創出する必要がある。 国際線については、上海便・大連便を除く定期便が運休しており、運航再開に向けて引き続き交渉していくとともに、運航再開後は、旅客需要の早期回復に向けて、これまで以上にインバウンド・アウトバウンド双方向の利用促進に取り組むことが重要である。									
今後の取組み		令和6年度 体に対して					していくとと	≟もに、市町	 J村、民間		

部局•室課	知事政策局デジタル化推進室	班∙係	デジタル戦略課IT推進担当
TEL(直通)	076-444-3116		

KPI番号	87										
KPI名	県内にお	県内における5G基盤展開率									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	-	-	-	-	-	-	-	94. 2% 以上	-		
評価指標動 向の説明	公表されて	公表されていないため不明									
目標達成の 見通し	達成可能	達成可能									
目標達成の 見通しの 判断理由	展開率の	総務省は、令和4年3月に「デジタル田園都市国家インフラ整備計画」を策定・公表し、5G基盤 展開率のほか、5G人ロカバー率について整備目標を掲げ、世界最高水準の5G環境の実現を 目指すとしている。									
目標達成に向けた課題	県内におり	県内における5Gエリアは、令和6年4月現在、県内市町村の一部に留まっている。									
今後の 取組み	開催するな	用を検討す など、県内! につなげる	こおける50								

部局•室課	商工労働部地域産業振興室経営支援課	班∙係	地域産業·商業活性化担当
TEL(直通)	076-444-3253		

KPI番号	88										
KPI名	中心市街	中心市街地の歩行者通行量									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	富山市 50,863人 高岡市 18,229人	富山市 47, 181人 高岡市 17, 517人	富山市 46,638人 高岡市 14,425人	富山市 34,005人 高岡市 10,149人	富山市 45,896人 高岡市 10,898人	富山市 55, 439人 高岡市 12, 217人	富山市 57,670人 高岡市 12,845人	富山市 46,000人 高岡市 17,670人	富山市 125.4% 高岡市 72.7%		
評価指標動 向の説明	る。	富山市:駅周辺の整備が進んでいることもあり、数値は増加傾向にあり、目標値を上回っている。 高岡市:R3以降新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向にある。									
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	ものの、R	おいて、新3 4年度から の活性化施	数値が大き	く変動して	おらず、目	標の達成の	oためには	、再開発事	業や、中		
目標達成に向けた課題	中心市街	中心市街地活性化に向けた取組み等をさらに進めていく必要がある。									
今後の 取組み	の支援を	「地の魅力」 引き続き実 「ループが写 爰する。	施する。								

部局•室課	商工労働部地域産業振興室経営支援課	班∙係	地域産業·商業活性化担当
TEL(直通)	076-444-3253		

KPI番号	89									
KPI名	県民一人	県民一人当たりの小売業の年間商品販売額								
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
	_	_	1.09百万 円	1.09百万	1.09百万 円	1.11百万 円	R6.10 公表予定	1.10百万	-	
評価指標動 向の説明		県民一人当たりの小売業の年間商品販売額はH27からR4にかけてほぼ横ばいとなっており、 R4は目標値を上回っている。(H27:1.13百万円→R3:1.09百万円)								
目標達成の 見通し	達成可能	E E								
目標達成の 見通しの 判断理由		少に伴い、 の経営革新							街づくり	
目標達成に向けた課題	北陸新幹	北陸新幹線延伸による人の流れの変化や、消費者ニーズの変化に対応していく必要がある。								
今後の 取組み	場への参ん	商店街支技 入支援や電 商品販売額	子取引で	の販売力強	能化を目的。					

部局•室課	知事政策局デジタル化推進室	班∙係	デジタル戦略課IT推進担当
TEL(直通)	076-444-3116		

KPI番号	90										
KPI名	TOYAMA	TOYAMA Free Wi-Fiのアクセスポイント(AP)の数									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	125	149	163	168	180	185	194	195	99. 5%		
評価指標動 向の説明	平成27年	平成27年度より、アクセスポイントの数については、毎年増加している。									
目標達成の見通し	達成可能	E E									
目標達成の 見通しの 判断理由	奶火心豉	・観光施設  ンやタブレ・							後もス		
目標達成に向けた課題	市町村にるそ設置済る	市町村におけるTOYAMA Free Wi-Fiの整備については、ニーズの高い場所についてはおおよ そ設置済みであり、今後は新たなニーズや課題を把握する必要がある。									
今後の 取組み		の、TOYAM 題を把握し						こより、Wi-F	設置の		

部局•室課	知事政策局・デジタル化推進室	班∙係	電子県庁推進担当
TEL(直通)	076-444-8934		

KPI番号	91									
KPI名	自治体ク	自治体クラウドを利用している市町村数								
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
	7市町村	9市町村	10市町村	11市町村	11市町村	14市町村	14市町村	13市町村	107. 7%	
評価指標動 向の説明	自治体の記 とにより、「 平成27年」 町村だった 波市、南研 総務省が	自治体クラウドは、近年様々な分野で活用が進んでいるクラウドコンピューティング技術を電子自治体の基盤構築にも活用して、地方公共団体の情報システムの集約と共同利用を進めることにより、情報システムに係る経費の削減や住民サービスの向上等を図るもの。 平成27年度末時点での利用団体は入善町、朝日町、舟橋村、射水市、滑川市、上市町の6市町村だったが、令和4年度末までに黒部市、魚津市、立山町、小矢部市、高岡市、氷見市、砺波市、南砺市が加わり14市町村となっている。総務省が策定した自治体DX推進計画においても重点取組事項の1つとして、自治体の情報システムの標準化・共通化が取り上げられている。								
目標達成の 見通し	既に達成	ζ								
目標達成の 見通しの 判断理由	既に目標で	を達成してい	いるため							
目標達成に向けた課題	国が進める	国が進める自治体情報システムの標準化・共通化に向けた取り組みを進める必要がある。								
今後の 取組み		治体クラウ 句けた取り		を活かし、 )る。	県と市町村	↑が一体とフ	なって、情報		の標準化・	

部局•室課	交通政策局地域交通・新幹線政策室	班∙係	交通計画担当
TEL(直通)	076-444-3124		

KPI番号	92										
KPI名	地域交通	地域交通計画を策定している市町村数									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	9市町村	9市町村	9市町村	11市町村	11市町村	11市町村	12市町村	15市町村	80.0%		
評価指標動 向の説明		・各市町村では、地域公共交通活性化・再生法に基づく、地域公共交通計画を策定する動きが広がっており、計画を策定している市町村数は着実に増加している。									
目標達成の 見通し	達成可能	ይ ይ									
目標達成の 見通しの 判断理由		いてもR6.2 計画策定・d							市町村に		
目標達成に向けた課題	•各市町村	けによる計画	策定に向	けた機運酮	譲成や策定	に向けたす	⊽援•助言等	手が必要で	ある。		
今後の 取組み	において記	市町村等か 设置されてし 」村の計画:	いる地域公	共交通会認	義に県も参						

部局•室課	交通政策局地域交通・新幹線政策室	班∙係	新幹線政策担当
TEL(直通)	076-444-8902		

KPI番号	93									
KPI名	幹線鉄道の運行間隔(最大運行間隔の短縮)									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
	1.5時間 から2時 間程度	1.5時間 から2時 間程度	1.5時間 から2時 間程度	1.5時間 から2時 間程度	1.5時間 から2時 間程度	1.5時間 から2時 間程度	1.5時間 から2時 間程度	概ね1時 間程度		
評価指標動 向の説明	・各鉄道事業者においては、利用状況を踏まえ毎年ダイヤの見直しを行っており、一部の鉄道 事業者においては、通勤・通学時間帯の増便・増車やパターンダイヤの導入の動きなどが見られる。									
目標達成の 見通し	既に達成	ţ								
目標達成の 見通しの 判断理由	入し、また込んだ城域	城端線·氷 湍線·氷見	見線では、 線再構築実	60本程度	/日の運行 策定し、R6.	10時〜138 本数増やE 2に国の認	中のパター	ーンダイヤー	化を盛り	
目標達成に向けた課題										
今後の取組み										

部局•室課	交通政策局地域交通・新幹線政策室	班∙係	新幹線政策担当
TEL(直通)	076-444-8902		

KPI番号	94									
KPI名	全国相互利用可能な交通系ICカードの鉄軌道・バス数									
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
進捗状況	1路線	2路線	2路線	2路線	3路線	3路線	3路線	できる限 り増やす		
評価指標動 向の説明	・あいの風とやま鉄道全駅、JR城端線の新高岡駅及び富山地方鉄道市内軌道線において全国で相互利用可能な交通系ICカードを導入している。その他、富山地方鉄道の鉄道線及び路線バス(高速バス等一部路線を除く)において自社独自のICカードが導入されている。 ・万葉線ではR6.9から全国で相互利用可能な交通系ICカードを導入することとしており、また城端線・氷見線でも、交通系ICカードの導入を盛り込んだ城端線・氷見線再構築実施計画を策定し、R6.2に国の認定を受けた。									
目標達成の 見通し	達成可能	Ė Ė								
目標達成の 見通しの 判断理由	・県内の多	らくの鉄軌道	道線等でIC:	カードの導	入が進んた	ことから、	「既に達成	」と判断した	<b>-</b> 0	
目標達成に 向けた課題										
今後の 取組み										

部局·室課	交通政策局地域交通·新幹線政策室	班∙係	地域交通担当
TEL(直通)	076-444-3123		

KPI番号	95										
KPI名	ノンステ	ノンステップバス導入率									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5(A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	61.2%	64.9%	74.9%	75.3%	75.0%	80.5%	R6年度冬 頃公表予 定	80.0%	-		
評価指標動 向の説明	・高齢者等の利用に配慮し、各交通事業者においてノンステップバスの導入が進められている										
目標達成の 見通し	既に達成	ţ									
目標達成の 見通しの 判断理由	5年度まで	くの導入をた で中古のノン 度末で目標	ノステップノ	バスの導入	「両の購入! に対しても	こ対する支 支援してお	援に加え、 <sup>、</sup> り、導入率に	平成28年度 は年々上昇	をから令和 した結		
目標達成に向けた課題											
今後の取組み											

部局•室課	生活環境文化部 スポーツ振興課	班∙係	地域スポーツ係
TEL(直通)	076-444-3461		

KPI番号	96									
KPI名	スポーツ	スポーツ指導者数(日本スポーツ協会に登録している公認スポーツ指導者数)								
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
進捗状況    -	2,680人	2, 963人	2, 987人	3, 118人	3, 214人	3, 212人	3,641人	3,000人	121. 4%	
評価指標動 向の説明	的とした指	(公財)富山県スポーツ協会と競技団体が、コーチ等の資質向上のために資格取得や更新を目的とした指導者講習会を毎年開催している。さらに、スポーツ少年団指導者に関わる資格制度の改定による新規取得者の増加により、令和2年度に評価指標を達成した。								
目標達成の 見通し	既に達成	ţ								
目標達成の 見通しの 判断理由	え、令和4	D指導現場 年度から総・スタントマス 後を維持して	合型地域。 ネジャー、2	スポーツク	ラブの登録	∶∙認証制度	の運用開	始に伴う有	資格者	
	しているた	令和2年度に目標は達成したが、少子化によりスポーツ少年団の登録者数や指導者数は減少しているため、目標値は据え置き、動向を注視する必要がある。また、スポーツ少年団指導者資格制度の改定に伴う更新の移行手続きにより、登録指導者数が増加したが、引き続き周知を図り、資格保持者数の維持・増加に努める必要がある。								
今後の取組み	数の増加	活動の地域 及び資質向 行)登録者を	]上のため、	、改修した技	<sub>指</sub> 導者登録	システムへ	への指導者	登録を契格	後として、	

部局•室課	厚生部健康対策室健康課	班∙係	がん対策推進担当
TEL(直通)	076-444-3224		

KPI番号	97									
KPI名	市町村か	市町村がん検診受診率								
進捗状況	(基準) H29	Н30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
	21. 1~ 32. 6%	20. 1~ 33. 4%	18. 9 <b>~</b> 32. 2%	12. 1 <b>~</b> 25. 8%	13. 9~ 28. 0%	17. 2 <b>~</b> 20. 3%	R7.3月 公表予定	50%		
評価指標動 向の説明	市町村がん検診受診率は近年横ばいだったが、R2年度にコロナ禍における受診控えのため低下している。R3年度には、一部のがん種で改善も見られたが、目標の50%に達していない。 ※指標は、R3までは県独自に算定した受診率を、R4以降は厚労省の算定した受診率を用いている。									
目標達成の 見通し	要努力									
目標達成の 見通しの 判断理由	受診率がカ」と判断		乳がん検診	うでも、目標	[50%まで糸	約30ポイン	ト必要な状	況であるた	め、「要努	
目標達成に向けた課題		がん検診受診率については、目標の50%に達していないため、関係機関と連携し、職域や家 庭等も含めた幅広い普及啓発や受診しやすい環境づくりに取り組む必要がある。								
今後の 取組み		き市町村に					今後も積極 診体制の乳			

部局•室課	厚生部健康対策室健康課	班∙係	精神保健福祉担当
TEL(直通)	076-444-3223		

KPI番号	98										
KPI名	自殺死亡	自殺死亡率(人口10万人あたりの自殺者数)									
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況	17.9人	15.5人	15.8人	19人	18. 3人	19.8人	15.8人	14. 4人以下 (R8)	ı		
評価指標動 向の説明	本県の自殺死亡率(人口10万人あたりの自殺者数)はH15年の32.1をピークに減少傾向が続いていたが、コロナ禍以降高止まりの状況にあった。令和5年は前年に比べ10万人あたり4.0人の改善となったが、目標としている令和8年の自殺死亡率に対していまだ高い水準であり、引き続き、普及啓発、相談体制の整備・充実、うつ病等の高リスク者対策などの各種施策に取り組んでいく必要がある。										
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	が続いてき	率は年によ きたが、コロ ち点では目れ	ナ禍以降に	ま下がらな	い状況が終	売いている。		-減少傾向 況を分析する	必要があ		
目標達成に向けた課題		・地域の状況に応じた自殺対策が推進される必要がある。 ・年齢層(若者、働く世代、高齢者)に応じた自殺対策の推進が必要である。									
今後の 取組み	<ul><li>インター</li><li>を適切なれ</li><li>自殺者の</li></ul>	、若年層を ネット検索コ 目談窓口に )増加に対け す応時間を2	エンジン(go つなぐこと 志するため	ogle)の検 で、若者の 、昨年度に	索連動広告 自殺対策を こ引き続き電	らを活用した 性進する。 電話相談窓	て、自殺関	連ワードを検	素した人		

部局•室課	厚生部健康対策室健康課	班∙係	健康増進・歯科保健担当
TEL(直通)	076-444-3238		

KPI番号	99										
KPI名	80歳(75	80歳(75~84歳)で20本以上の自分の歯を有する者の増加									
進捗状況	(基準) H29	Н30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	44. 9%	1	-	-	46. 6%	-	ı	50. 0%	-		
評価指標動 向の説明	80歳の20本以上の自分の歯を有する者は増加(改善)しているが、R3年度時点で46.6%であり、 全国の51.6%(R4)より低い状況である。										
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	指標の達成した。	成には、乳	幼児期·学	齢期・成人	期からの長	長期的な取	組みが必要	要であり、「!	要努力」と		
目標達成に向けた課題		歯を失う主な原因はむし歯や歯周病等の歯科疾患であるため、ライフステージの特性に合わせた歯科疾患の予防や重症化予防が必要。									
今後の取組み					や口腔機能						

部局·室課	厚生部 医務課	班•係	医療政策係
TEL(直通)	076-444-3219		

KPI番号	100										
KPI名	地域にお	地域における医療機関相互間のネットワーク化									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	一部医療 圏間で整 備	医療圏別 に整備	医療圏別 に整備	医療圏別 に整備	医療圏別 に整備	医療圏別 に整備	医療圏別 に整備	全県的に 整備	_		
評価指標動 向の説明	・医療機関間で、診療上必要な医療情報を電子的に共有・閲覧できるネットワークについて、本県では二次医療圏ごとに整備されている。										
目標達成の 見通し	達成可能	E E									
目標達成の 見通しの 判断理由	ワークの役に整備され	で、医療機会割を検討れているネッスた情報連	している。そ ットワークと	その役割が 合わせてX	示され、活 舌用するこ。	用方法に位とで、従来の	半う基盤等	が整備され	れば、既		
目標達成に向けた課題	・地域医療情報連携ネットワークは各地域の状況に合わせて構築が進められたために運用方法等が異なっている。医療DXの推進により全国医療情報プラットフォームの創設が進む中で、その活用方法について、現在も国において検討中である。 ・また、既存のネットワークの機能向上等を行うにあたっては、国の仕組みと機能上、重複しないよう配慮が必要である。										
今後の 取組み		けの動向も沿 に対し支援		、ネットワー	-クの運営!	事業者の要	受望があれ	ば、ネットワ	リークの機		

部局•室課	厚生部 医務課	班•係	医師•看護職員確保対策係
TEL(直通)	076-444-3218		

KPI番号	101										
KPI名	人口10万人当たり医師数										
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	256.6人 (H28)	267. 4人	I	273.7人	1	284. 1人	-	270人 (R5)	105. 2%		
評価指標動 向の説明	本県の医院でいる。	本県の医師数(総数)は増加傾向にあり、人口10万人当たりでは、全国平均の274.7人を上回っている。									
目標達成の 見通し	達成可能	Ė Ė									
目標達成の 見通しの 判断理由		業後、富山 ており、達瓦			勤務するこ	とを条件と	する修学資	資金の貸与	-者数が順		
目標達成に向けた課題	人口10万/ よる自然派	人口10万人当たりの医師数は増加傾向にあるが、医師の働き方改革への対応や退職、死亡による自然減への対応、地域・診療科間の偏在対策に取り組む必要がある。									
今後の 取組み		地域に必弱 師確保対策			修学資金(	の貸与や初	]期臨床研	修医の確保	呆など、総		

部局•室課	厚生部 医務課	班•係	保健看護係
TEL(直通)	076-444-3220		

KPI番号	102										
KPI名	認定看護	認定看護師数									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	251人	277人	291人	313人	324人	331人	338人	425人	79. 5%		
評価指標動 向の説明	本県の認定看護師数は年々増加しており、人口10万対33.6と全国平均の19.4を上回っている (全国順位1位)。										
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	いる病院に	加している こおいて認! 生進していく	定看護師が	が増えにくし	現状もある						
目標達成に向けた課題	・地域医療介護総合確保基金事業補助金(看護職員育成研修支援事業)を活用し、認定看護 師教育課程の受講を推進していく必要がある。										
今後の 取組み	•看護職員	の資質向.	上、職場定	着を目指し	、認定看證	護師の増加	を図る。				

部局·室課	厚生部・厚生企画課	班•係	地域共生福祉係
TEL(直通)	076-444-3197		

KPI番号	103										
KPI名	介護サー	介護サービスにおける介護職員数									
	(基準) H29	Н30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況   	(17, 397 人)	17, 858人	19,060人	19,349人	19, 551人	19, 325人	2025.3 公表予定	20, 900人	-		
評価指標動 向の説明		国実施の調査を基にした推計値であるが、R4減少に転じた。 ※()内数値は推計方法変更前のもの(H30数値から変更)									
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	福祉人材確保対策会議で検討された各種の施策を着実に実施してきており、介護需要の増加もあって、基準年と比較し職員数も増加傾向にはあるが、中高年齢層などの人材の掘り起こしや、イメージアップ戦略等をこれまで以上に加速化し、更なる就業促進に向けて努力していく必要があるため。										
目標達成に向けた課題	福祉・介護職は、他の職種と比べて有効求人倍率が高い一方、介護福祉士養成校への入学者数は減少しており、福祉・介護現場の人手不足と若者の福祉離れの傾向が依然として続いている。 若者向け介護職のイメージアップ促進策などを中心として、引き続き人材確保・定着を図る事業の実施に努め、より効果的に福祉人材確保対策に取り組む必要がある。										
今後の取組み	人材確保 ・中高生向 方に修学 の多様な ・令和6年 校生の介	対策・介護 引けPR事業 資金や就 人材の参新 支には事へ 護の仕事へ	現場革新会の実施や、 建備金の 、を図ること 、に、小中学 、の関心を	するために 会議で検討 介付では 貸している と生なるため チングから	する。 養成校の鬼 し、福祉職 ・ 介護の仕 、有償イン	ま力向上を はを目指する 事」の魅力。 ターンシック	支援するほ 告者の増加 発信を行う プの実施、	か、介護耶1、地域・他 市町村へ6 外国人介語	戦を目指す 業種から の支援、高 隻職員のさ		

部局·室課	厚生部·厚生企画課	班•係	地域共生福祉係
TEL(直通)	076-444-3197		

KPI番号	104										
KPI名	富山型デイサービス施設設置件数										
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	128箇所	130箇所	132箇所	132箇所	128箇所	119箇所	111箇所	180箇所	61. 7%		
評価指標動 向の説明		H14年度の「富山型デイサービス起業家育成講座」開講以来、設置が進んできたが、R2年度 以降減少している。									
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由		が減少してはよる設置に							るなど新		
目標達成に向けた課題	講座」の受	富山型デイサービスを起業したいと思っている方を対象とした「富山型デイサービス起業家育成講座」の受講生が減少していることから、周知先を拡大するなど新規開設による設置に積極的 に取組む必要がある。									
今後の 取組み		・イサービス 、設置数の			周知先を拡	大するな。	ど新規開設	による設置	置に積極的		

部局•室課	厚生部•厚生企画課	班∙係	地域共生福祉係
TEL(直通)	076-444-3197		

KPI番号	105										
KPI名	ケアネッ	ケアネット活動の取組み地区数									
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況   	262地区	265地区	266地区	266地区	265地区	266地区	264地区	306地区	86. 3%		
		平成24年度に県の補助制度を拡充し、中核市も参加するようになったことから増加していたが、 近年は横ばいが続いている。									
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	いとなって	制度の拡充 おり、県社 かける必要	協を通じて								
目標達成に向けた課題	町村社協	市町村社協や地区社協によってケアネット活動に対する理解や取組みに差があることから、市町村社協担当職員研修会の開催やアドバイザーの派遣などにより職員の資質向上やノウハウの蓄積を図っていく必要がある。									
今後の 取組み		地域運営 ハてケアネ <sup>、</sup>					援を継続す	るとともに	、全ての		

部局•室課	厚生部高齢福祉課	班∙係	地域包括ケア推進係
TEL(直通)	076-444-3205		

KPI番号	106										
KPI名	地域包括	地域包括ケア活動の実践団体登録数									
-	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況   	2,016団体	2, 219団体	2, 252団体	2, 285団体	2,354団体	2,367団体	2,414団体	2, 400団体	100. 6%		
評価指標動 向の説明	体や社会	地域包括ケアシステムの構築を促進するために、高齢者の日常生活を支援するボランティア団体や社会貢献活動の一環として高齢者への支援を行う事業者などの登録を平成27年10月から開始しており、その登録数は順調に増加している。									
目標達成の 見通し	既に達成	ţ									
目標達成の 見通しの 判断理由	令和5年原	度に目標数	に到達した	- 0							
目標達成に向けた課題	_										
今後の 取組み	引き続き、 促進を目‡	同制度の原 指す。	ままりませる。 ままない。 ままれる。	、登録団体	*数の増加	を図り、地	域包括ケア	<b>'</b> システム <i>0</i>	の構築の		

部局•室課	厚生部高齢福祉課	班•係	地域包括ケア推進係
TEL(直通)	076-444-3205		

KPI番号	107										
KPI名	訪問看護ステーションに従事する看護職員数(人口10万人当たり)										
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	34. 4人	35. 45人	38. 55人	43. 55人	47. 26人	53.82人	54. 95人	45人	_		
評価指標動 向の説明		・本県の訪問看護ステーションに従事する訪問看護職員数(人口10万人あたり)は、着実に増加している。									
目標達成の 見通し	既に達成	į.									
目標達成の 見通しの 判断理由	・着実に増	加している	ことから、	目標は達成	<b>対可能であ</b>	ると判断し	t=.				
目標達成に向けた課題	坦塔拉士	こより増大す 、業務改善	- る在宅の 等の支援 <sup>4</sup>	医療需要に や、訪問看	対応するが護職員の確	ため、訪問: 笙保・定着 <i>を</i>	看護ステー よどをよりー	ションの新 ・層強化す	規開設、 る必要が		
今後の 取組み	・引き続き 連携を図っ	、令和6年 っていく。	度当初予算	草に盛り込ん	んだ事業を	着実に推進	進していくと	ともに、関	係機関と		

部局•室課	厚生部高齢福祉課	班∙係	施設・居宅サービス係
TEL(直通)	076-444-3414		

KPI番号	108										
KPI名	特別養護	特別養護老人ホーム待機者数									
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況	1,821人	1, 798人	1, 898人	1, 950人	1, 941人	1, 858人	1, 698人	ゼロを目 指して減 少させる	_		
評価指標動 向の説明	から、H27 者グルーフ	高齢者の増加に伴い、要介護高齢者も増加する中、施設への入所希望が依然として多いことから、H27年度から地域密着型特別養護老人ホームを358床を整備するとともに、認知症高齢者グループホームや小規模多機能型居宅介護などの介護サービス基盤を整備したところ、R3年以降はやや減少傾向にある。									
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	R3年以降 た。	やや減少値	傾向であるが	が、依然とし	して多くの谷	寺機者がい	ることから	、「要努力」	と判断し		
		介護サービス基盤の整備については、介護保険事業支援計画に基づき着実に整備を進めてき ているところであるが、特養の待機者の減少に向けて、今後も計画的に進めていく必要がある。									
今後の 取組み		ど、施設とを						域での介護 機者数ゼロ			

部局•室課	厚生部高齢福祉課	班•係	施設・居宅サービス係
TEL(直通)	076-444-3414		

KPI番号	109									
KPI名	認知症高齢者グループホームの床数									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
	2, 564床	2, 582床	2, 639床	2, 666床	2, 680床	2, 725床	2, 689床	2, 792床 (R6)	96. 3%	
評価指標動 向の説明		富山県介護保険事業支援計画に基づき、認知症高齢者グループホームの床数は着実に増加している。しかし、R4からR5はやや減少となった。								
目標達成の 見通し	達成が困	<b>国難</b>								
目標達成の 見通しの 判断理由		曽加傾向に は見込めな					を踏まえて	も整備目標	票の2,792	
目標達成に向けた課題	整備をよりる。	整備をより一層進めるため、補助制度の活用や介護人材確保の支援などを推進する必要がある。								
今後の 取組み		重携し、県 <i>0</i> に沿った、i							保険事業	

部局·室課	厚生部高齢福祉課	班•係	地域包括ケア推進係
TEL(直通)	076-444-3205		

KPI番号	110										
KPI名	認知症力	認知症サポーター養成講座修了者数									
W 14- 11- 27	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況   	108, 634 人	120, 939 人	133, 056 人	137, 466 人	142, 392 人	148, 668 人	155, 029 人	150, 000 人	103. 4%		
評価指標動 向の説明		・本県の認知症サポーター養成講座終了者数は順調に増加している。 ・総人口に占める認知症サポーター割合は15.1%であり、全国平均(11.5%)を上回っている。									
目標達成の 見通し	既に達成	ζ									
目標達成の 見通しの 判断理由	令和5年度	きに目標数	に到達した	- o							
目標達成に向けた課題	_										
今後の取組み	・企業向け	一に研修や著	普及啓発を	行うことで	、認知症サ	ポーターの	うさらなる養	を目指する おおおお おおお かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい	<del></del>		

部局•室課	障害福祉課	班∙係	管理係
TEL(直通)	076-444-3211		

KPI番号	111										
KPI名	障害者グループホーム利用者数										
-	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況	806人	849人	870人	931人	974人	1,008人	1, 074人	1, 015人	105. 8%		
評価指標動 向の説明	共同生活援助のサービス利用者については、施設入所支援の利用者の減少に伴い増加して いく見込みである。										
目標達成の 見通し	既に達成	Ì.									
目標達成の 見通しの 判断理由	令和5年度	度に目標数	に到達した	:							
目標達成に向けた課題											
今後の 取組み	引続き、障できるよう	章害のある/ 、障害福祉	人が住み慣 サービス <i>0</i>	iれた地域 <sup>・</sup> D充実やグ	で自立し、5 ループホー	安心して日-ムの整備	常生活や社 を着実に推	±会生活を 進する。	送ることが		

部局•室課	障害福祉課	班•係	管理係
TEL(直通)	076-444-3211		

KPI番号	112									
KPI名	日中活動を支援する事業所利用者数									
2// lsk 1/2 25	H29	(基準) H30	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100				
進捗状況    -	5, 927人	6, 054人	6, 286人	6, 467人	6, 515人	6, 670人	6, 813人	7, 139人	95. 4%	
評価指標動 向の説明	日中活動系サービスについては、障害者支援施設等から地域生活へ移行する障害者や、特別支援学校高等部卒業生など、日中活動の場として、新たにサービスを利用する者が増加することから、利用者数や利用量は増加する見込みである。									
目標達成の 見通し	要努力									
目標達成の 見通しの 判断理由		から利用る かが必要で					目標を達成	するために	こは、より	
	障害のある人の地域生活を支援するため、引き続き、国、市町村、関係団体等と連携し、サービスの質の確保・向上に向けた取組を進めていく必要がある。									
今後の 取組み	引き続き、	国、市町村	力、関係団体	本等との連	携を図って	いく。				

部局•室課	教育委員会 生涯学習·文化財室	班∙係	青少年教育担当
TEL(直通)	076-444-9647		

KPI番号	113									
KPI名	放課後子ども教室等を実施している小学校区の割合									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
	99. 5%	99. 5%	99. 5%	99. 4%	99. 4%	99. 4%	99. 4%	100%	99. 4%	
評価指標動 向の説明	・県内全小学校区のうち、放課後子ども教室(文部科学省)、放課後児童クラブ(厚生労働省)、とやまっ子さんさん広場(県単事業)のいずれかを実施している小学校区の割合であり、ほぼ横ばい傾向にある。									
日標達成の 見通し	達成可能	E E								
目標達成の 見通しの 判断理由	で、地域ぐ は、放課後 協力を得る	等の参画 るみで子と 後子ども教 て、子どもの 舌動等が推	された見守り 室等を実施 の放課後の	J育てる取組 しなくても5 安全・安心	組みは広ま 安全な居場 な活動場所	り、定着し 所が確保さ 所が確保さ	ている。未 されている。 れ、概ね学	実施の1小。 地域人材 :習活動や(	学校区 の参画・	
目標達成に向けた課題	・今後、学校の統廃合により箇所数の減少が予想され、統廃合後の体制整備が求められる。 0.6%の未実施校区(1校区)を含め、学習活動や体験活動、交流活動等が推進され、より有意 義な放課後が過ごせるよう働きかけていく必要がある。									
今後の 取組み	教育委員: 地域住民	児童対策/ 会と福祉部 発等の参画 動の推進体	局の連携で による子ど	を強化して もたちの成	いく。 長を支える	多様な活	動を支援す			

部局•室課	教育委員会 保健体育課	班∙係	食育安全係
TEL(直通)	076-444-3444		

KPI番号	114									
KPI名	児童生徒	児童生徒の朝食の欠食割合								
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
	小学5年生 0.8% 中学2年生 1.9%	小学5年生 0.8% 中学2年生 2.1%	小学5年生 0.9% 中学2年生 2.2%	小学5年生 1.1% 中学2年生 2.3%	小学5年生 1.1% 中学2年生 2.3%	小学5年生 1.0% 中学2年生 2.6%	小学5年生 1.3% 中学2年生 3.3%	限りなく ゼロに近 づける	_	
評価指標動 向の説明	・国の施策として第4次食育推進基本計画(R3.3策定)の目標にも引き続き「朝食を欠食する子供の割合 0%」と掲げられている。本県の児童生徒の欠食率は、長期的に見ると18年前(H16)の小学生1.6%、中学生2.5%から改善しているものの、近年は微増傾向にある。									
目標達成の 見通し	要努力									
目標達成の 見通しの 判断理由		「個々の家」 「要努力」と		ころが大き	いため、完	全に0%に	するにはか	いなりの努力	かを要する	
目標達成に向けた課題	・食習慣は個々の家庭によるところが大きいため、完全に0%にするにはかなりの努力を要する。今後も、朝食摂取並びに、朝食内容の栄養バランスの向上を目指して取組を継続、充実させていく必要がある。									
今後の 取組み		oかり朝ごに 徒の指導・					な指導資料	や啓発資料	料を作成	

部局•室課	教育委員会 生涯学習·文化財室	班∙係	家庭成人教育担当
TEL(直通)	076-444-3435		

KPI番号	115										
KPI名	小・中学	小・中学校の保護者の親学び講座参加率									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	44. 3%	45. 1%	52. 9%	31. 6%	28. 6%	31. 8%	42. 4%	50%	84. 8%		
評価指標動 向の説明	・令和2年度から令和4年度は、コロナ禍で講座参加率が減少した。令和5年度はコロナ禍を経て学校での講座回数が増加し、それに伴って参加率も増加している。										
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	いている。 さを広め、	度に講座を 令和6年度 実施機会の 取の見通し	tも、県PTA D増加や馬	連合会や  知・普及に	市町村教委 :向けた取約	等と連携を	を取りながり	ら、親学び	講座のよ		
目標達成に向けた課題	協力したり	・より多くの保護者に親学び講座に関する情報が届くよう、PTA、市町村教委、学校等と連携・協力したり、HPやSNS等を活用して情報発信したりしながら、引き続き親学び講座を推進していく必要がある。									
今後の 取組み	との連携を取ったり、	≹護者の二- €深め、参加 講座をコー を開催でき	n者の声や ディネート	講座をコー する推進リ	-ディネート ーダーの養	する親学び	が推進リーク	ダーの意見	を聞き		

部局•室課	教育委員会 生涯学習·文化財室	班•係	青少年教育担当
TEL(直通)	076-444-9647		

KPI番号	116									
KPI名	18歳・19歳の投票率									
進捗状況	(基準) H28	Н30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
	41. 3%	選挙なし	28. 0%	44. 7%	37. 1%	31. 6%	24. 1%	増加させる	-	
評価指標動 向の説明	平成27年に選挙年齢が18歳以上に引き下げられたことを受けて、主権者教育に対する取組みが推進されたことにより、平成28年の参議院選挙における18・19歳の投票率は41.25%と高かった。令和2年度の県知事選挙では過去最高の44.7%だが、令和3年度以降は減少傾向である。平成29年度以降の投票率は年度や選挙内容によって差異があるものの、多くは30%以上を維持している。									
目標達成の 見通し	要努力									
目標達成の 見通しの 判断理由	き下げとなっている。	改正後、大 り、若者の とやま県請 あり、「要努	政治への機会」事業等	関心も高ま 等をとおして	ってきてい	るが、引き	続き、学校	における主	権者教育	
目標達成に向けた課題	高等教育機関への進学のため一時的に地元を離れる若者の数が影響しているとも考えられるが、高校で高められた政治参加意識が継続されなかった場合も考えられるため、持続的な社会参画意識の向上を図る必要がある。									
今後の 取組み	校での事行	交における: 後活動等を 者の投票率	とおして、7	高校生の主	体的な政治					

部局•室課	教育委員会教育みらい室小中学校課	班∙係	教育力向上班
TEL(直通)	076-444-4495		

KPI番号	117										
KPI名	地区別幼児教育・小学校教育接続研修会参加率										
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	58. 1%	54. 7%	56. 5%	58. 8%	42. 1%	48. 8%	49. 7%	59. 0%	84. 2%		
評価指標動 向の説明	接続研修: ・令和3年 択制で参加	・毎年、10月~11月頃に実施している地区別(新川・富山・高岡・砺波)幼児教育・小学校教育接続研修会に参加した幼稚園、保育園(所)、認定こども園、小学校の割合である。 ・令和3年度は、コロナ禍のため地区別参集型での開催ができず、オンラインで3講座からの選択制で参加を自由としたため、受講者が減ったが、R4以降は、例年どおりの開催方法に戻し、参加率が回復傾向にある。									
目標達成の 見通し	達成可能	Ė									
目標達成の 見通しの 判断理由	されていく携を密にす	教育や、幼 ことが予想 するとともに するなどして	される。令、、研修会場	和6年度は 易や広報を	各市町村工夫し、各	教育委員会 幼児教育的	きや幼児教 施設等への	育施設主管 本研修会(	言課との連		
目標達成に向けた課題	手不足や	幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を推進していく意識は高まってきているものの、人 手不足や多忙感が課題となっている。現場の実態やニーズに応じた内容、参加しやすさを工夫 していく必要がある。									
今後の取組み		発達や学び 研修会となる									

部局•室課	教育委員会教育みらい室県立高校課	班∙係	高校教育担当
TEL(直通)	076-444-3450		

KPI番号	118									
KPI名	児童生徒	児童生徒のICT活用を指導する能力								
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
	71. 9%	75. 2%	77. 0%	78. 9%	81. 2%	83. 3%	2024. 10 公表予定	85. 0%	-	
評価指標動 向の説明	・指標数値は、「学校における教育の情報化の実態等に関する調査(文部科学省)」にて、児童 生徒のICT活用を指導することが「できる」もしくは「ややできる」と回答した教員の割合である。 ・H28年度以降上昇を続けており、本県における児童生徒のICT活用を指導する能力は着実に 向上していると考えられる。また、いずれの年度においても、全国平均より上回っている。									
目標達成の 見通し	達成可能	Š								
目標達成の 見通しの 判断理由	実践を行っ	っている。ま	t:、ICTの		する研修を	、総合教育	学びのスタ センターや  断した。			
目標達成に向けた課題		・児童生徒を指導する教員自身のICTを活用して指導する能力についても、併せて向上させる 必要があると考える。								
今後の 取組み				ジタル教科 に取り組ん		Tを効果的	に活用した	授業の実践	浅事例の	

部局•室課	教育委員会教育みらい室県立高校課	班∙係	高校教育担当
TEL(直通)	076-444-3450		

KPI番号	119									
KPI名	授業が分かると答える生徒の割合									
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
進捗状況	59. 0%	64. 1%	64. 1%	67. 5%	71. 7%	74. 7%	69. 3%	増加させる	-	
評価指標動 向の説明	・平成28年12月の中教審答申以降、多くの教員が思考力・判断力・表現力を育成する授業を意識し、主体的な学びにつながる活動や対話による協働的な活動を授業に組み入れるなどの授業改善に取り組んでいる。近年は数値が約7割に達し、授業改善に向けた取組みが実を結んできているものと思われる。									
目標達成の 見通し	達成可能	Ė Ė								
目標達成の 見通しの 判断理由		空習習慣の! であると考え					善、指導方	法の研究が	が進めら	
		・一人一台端末の有効な活用などを通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが必要である。								
今後の 取組み		き続き、教向上につな						よの研究を	進めるこ	

部局•室課	教育委員会教育みらい室小中学校課	班∙係	教育力向上班
TEL(直通)	076-444-3449		

KPI番号	120									
KPI名	全国学力・学習状況調査における正答率									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
	小 +2P 中 +3P	全国トッ プクラス	小 +3P 中 +3P	全国学 カ・学習 状況調査 が実施さ れず	小 +3P 中 +1P	小 +3P 中 +2P	小 +2P 中 +1P	全国との差 小 +3P以上 中 +3P以上 を維持 (R8)	_	
評価指標動 向の説明	・全国学力・学習状況調査(小学6年生、中学3年生への悉皆調査実施)における正答率は、一 定の水準で推移している。									
目標達成の 見通し	要努力									
目標達成の 見通しの 判断理由		度の全国学 学校は全国						対全国平	均との差	
目標達成に向けた課題		・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を継続すること及び望ましい学習習慣や生活習慣の定着に向けた取組みを継続することが必要である。								
今後の 取組み	・今後も、「	市町村教育	· 「委員会と)	連携し、継糸	売的に各小	中学校の』	取組みを支	援していく	0	

部局•室課	教育委員会教育みらい室	班∙係	児童生徒支援担当
TEL(直通)	076-444-3452		

KPI番号	121										
KPI名	いじめの	いじめの解消率									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	(小・中・高・特) 80.5%	(小・中・高・特) 82. 2%	(小・中・高・特) 81.5%	(小·中·高·特) 75.5%	(小·中·高·特) 74.5%	(小·中·高·特) 70.8%	2024. 10 公表予定	限りなく100% に 近づける	-		
評価指標動 向の説明	向けて取り を認知し、 ・KPIは国生 ・なお、指	文部科学省から「各学校においては、発生しているいじめを漏れなく認知した上で、その解消に向けて取り組むことが重要である。」との見解が示されており、本県においても、漏れなくいじめを認知し、その解消率を高めることを目標としたものである。 ・KPIは国公私立の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の数値を示している。 ・なお、指標としている数値は、年度内(3月末まで)の解消率であり、認知の時期や事案の内容によっては、年度をまたいで継続対応となるものもある。									
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	目安とするている。1	文部科学省においては、「いじめが解消している」状態とは、相当の期間(少なくとも3か月を目安とする)いじめの行為が止んでおり、被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこととされている。1月以降にいじめを認知した場合、年度内で3か月以上いじめが止んだ状態にならないことが多いことから、要努力と判断した。									
目標達成に向けた課題	て丁寧に対	カウンセラ 対応すると。 D関係修復	ともに、いじ	こめられたり	見童生徒の	心のケア、	被害者二-	-ズの確認			
今後の取組み	子供たちた	応等に関す からのSOS 目談体制を	の受け止る	め方等に対	する教職員	員の資質向	上を図るこ	とや、各相	談機関等		

部局·室課	経営管理部学術振興課	班∙係	私学振興係
TEL(直通)	076-444-9645		

KPI番号	122											
KPI名	私立高等	私立高等学校への経常費補助金の補助単価水準(全国順位)										
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100			
進捗状況	10位	7位	7位	8位	11位	10位	11位	全国上位 (一桁) を維持	ı			
評価指標動 向の説明	・国庫補助に加え、私立学校の特色ある教育に対して上乗せして補助を行っており、補助単価 水準は全国上位を維持している。											
目標達成の見通し	要努力											
目標達成の 見通しの 判断理由		指導助手のi っているが、					先駆けた補	助を行うこ	とで全国			
目標達成に向けた課題	•国や他県	・国や他県の動向を注視しつつ、必要な予算の確保に努める。										
今後の 取組み		、令和6年 支援に取り		算に盛り込ん	んだ事業を	着実に推進	進するなど、	、私立高校	の特色あ			

部局•室課	教育委員会教育みらい室小中学校課	班∙係	教育力向上班
TEL(直通)	076-444-3449		

KPI番号	123									
KPI名	将来の夢や目標をもっている子どもの割合									
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
進捗状況	小84.8% 中68.5%	小84. 2% 中70. 6%	小83.4% 中69.1%	(実施せ ず)	小78.6% 中66.2%	小79.0% 中65.0%	小81. 2% 中64. 7%	増加させる	1	
評価指標動 向の説明	・H30(基準年)と比べ、減少している。 ・富山県の割合は、全国平均と比べて低い。 (小学校 H30:85.1% → R4:79.8% → R5:81.5%、中学校 H30:72.4% → R4:67.3% → R5:66.3%)									
目標達成の 見通し	要努力									
目標達成の 見通しの 判断理由		でのふるさと  標の達成					を実に向け	継続的に耳	切組んで	
	・子供たちが育つ社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等が、子供たち自らの将来のとらえ方にも大きな影響をもたらしていると考えられる。									
今後の 取組み	いく。ふる	でのふるさと さと教育に 受業等や家 ていく。	関わる副説	本やライス	ププラン教育	育用冊子を	デジタル化	しており、	富山のよさ	

部局•室課	教育委員会教育みらい室県立高校課	班∙係	高校教育担当
TEL(直通)	076-444-3450		

KPI番号	124										
KPI名	県立高校全日制3年生のインターンシップ体験率										
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況	74. 5%	75. 2%	82. 9%	国の調査 が中止の ためデー タなし	国の調査 が中止の ためデー タなし	53. 6%	68. 7%	80. 0%	85. 9%		
評価指標動 向の説明	・本県の県立高校全日制のインターンシップ体験率は、上昇傾向にあり、いずれも全国平均(R1:40.3%、R4:15.6%)より上回っている。(R5の全国平均値は未公表。)・R4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部中止となった事業所があったため、体験率が低くなったが、R5年度は全学科において体験率が上昇している。・職業系専門学科は体験率90%以上に達している(R5年度90.5%)。一方、R5年度の普通系学科の体験率は62.7%、総合学科は23.0%であるが、R4年度と比較すると増加している。・R2・3年度は国の調査が中止のためデータなし。										
目標達成の 見通し	達成可能	Ė									
目標達成の 見通しの 判断理由	からは全	度は、新型 学科におい (『17歳の排	て体験率な	が増加して	おり、R元年	度の体験	率が80%を				
目標達成に向けた課題		・職業系専門学科はほぼ100%の体験率を維持するとともに、普通系学科と総合学科の体験率の増加を図ることが必要である。									
今後の 取組み	ンターンシ	羽ばたく『1〕 ップ」や県『 で育の充実で	内企業で実								

部局•室課	教育委員会教育みらい室県立高校課	班•係	高校教育担当
TEL(直通)	076-444-3450		

KPI番号	125									
KPI名	新規高校卒業生の県内就職率									
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
進捗状況	94. 1%	95. 3%	94. 3%	95. 0%	95. 3%	94. 7%	2024. 12 公表予定	現状以上	_	
評価指標動 向の説明	・近年における高校卒業生の県内就職率は90%以上で推移し、全国の平均値よりも非常に高く、常に全国トップレベルである。									
目標達成の 見通し	達成可能	لگا								
目標達成の 見通しの 判断理由				とのできる、 可能」と判断		等の見学や	Þ就業体験	ができる機	会を充	
目標達成に向けた課題		・県内外の求人数は年々変動すること、国際情勢等に伴う景気や雇用情勢の変化など、見通すことの難しい要因がある。								
今後の 取組み	る機会、県	内企業等	の見学や就	ミ」の実施に 尤業体験が ・ズ把握やヌ	できる機会	を充実する	る。また、キ	ヤリア教育	アドバイ	

部局•室課	教育委員会教育みらい室県立高校課	班∙係	高校教育担当
TEL(直通)	076-444-3450		

KPI番号	126									
KPI名	新規高校卒業生の就職率									
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
進捗状況	99. 9%	99. 7%	99. 8%	99. 9%	99. 7%	100.0%	99. 9%	100. 0%	99. 9%	
評価指標動 向の説明	・近年における県内高校の新規卒業者の就職率については、経済状況の変動に関わらず、全 国の中では、常に上位5位以内の就職率で推移している。									
目標達成の 見通し	達成可能	٢								
目標達成の 見通しの 判断理由		バイザー等の		主事等連組 、学校の進						
目標達成に向けた課題		・物価上昇の影響や国際情勢等による不透明感がみられる中で、新規高等学校卒業者の求人数を確保すること。								
今後の 取組み	・関連機関	との連携を	を一層図り	ながら、切っ	れ目のない	支援を実施	色する。			

部局•室課	生活環境文化部 スポーツ振興課	班∙係	競技スポーツ係
TEL(直通)	076-444-3458		

		1								
KPI番号	127									
KPI名		国民スポーツ大会等の全国大会における上位入賞等の件数(高校野球・高校 サッカーはベスト8以上、駅伝は全国 20位以内)								
># 45 11 \pi	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
進捗状況	46	36	36	11	24	38	33	48	68. 8%	
評価指標動 向の説明	一貫指導体制の整備(「未来のアスリート発掘事業」「とやまスポーツ道場」等の取り組み)により強化しているが、全国中学校体育大会、インターハイでの上位入賞件数は減少した。令和5年度はコロナ禍前とほぼ変化はなく、強化活動が停滞していた割には、個人種目は健闘した。しかし国民スポーツ大会における上位入賞者数は上昇したものの、総合順位は目標の20位台まで届かず37位に終わった。									
目標達成の 見通し	要努力									
目標達成の 見通しの 判断理由	り2種目増育成・強化 トの充実に 成にはさら	ー貫指導体制を充実させるために、小学生を対象とした「未来のアスリート発掘事業」、R元年度より2種目増やし20競技で実施している「とやまスポーツ道場事業」で、ジュニア層からの発掘や育成・強化を進めている。また、「TOYAMAアスリートマルチサポート事業」のスポーツ医・科学的サポートの充実により、成年層にも成果が出つつあるが、国スポの成績や重点強化種目の目標値達成にはさらなる強化、施設充実、選手育成など、今後も継続的な施策が必要であることや、競技人口の減少から、達成見通しは「要努力」とした。								
目標達成に向けた課題	競技人口の減少に対する普及振興・強化活動の見直しや、指導者育成制度、強化事業の拡充 やブラッシュアップ等、合宿遠征等の強化事業だけでなく、新たな視野に立った新しい競技力向 上事業(例:マルチサポート事業のリニューアルやエリートユース育成事業の構築など)を実施 していく必要がある。									
今後の 取組み	ログラム <i>の</i> を目指す。	を維持しないのでは、「大きなない」では、「大きなない」では、「大きなない」では、「ないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	具内拠点施	設の活用	等の強化活	動を実施す	することで、	更なる競技	支力アップ	

部局•室課	生活環境文化部 県民生活課	班∙係	県民協働係
TEL(直通)	076-444-9012		

KPI番号	128										
KPI名	ボランティア活動者(地域で継続的に活動している人口10万人当たりのボランティア数)										
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	6,861人	7, 173人	6, 425人	6, 258人	5, 695人	5, 946人	5, 869人	7000人程 度を維持 する	83. 8%		
評価指標動 向の説明	近年は人口減少や新型コロナウイルス感染拡大に伴う活動制限に伴いボランティア活動者数が減少傾向にある。										
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	や学生、中		、勤労者な	どの幅広い				るために児 対かを促進す			
目標達成に向けた課題	・人口減が見込まれるため、幅広い世代に対してボランティア活動への参加を促す必要がある。										
今後の 取組み		、令和6年 ノティア活動				着実に推進	進し、関係ほ	団体と連携	しながら県		

部局•室課	生活環境文化部 県民生活課	班・係	県民協働係
TEL(直通)	076-444-9012		

KPI番号	129										
KPI名	NPO法人	NPO法人認証数(累計)									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	376法人	378法人	377法人	378法人	384法人	392法人	398法人	410法人	97. 0%		
評価指標動 向の説明	•令和5年	・令和5年度は新たに10法人認証し、4法人が解散したため、6法人の増加となった。									
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由		5齢化等に。 −スが増加 こ。									
目標達成に向けた課題	·NPO法人	・NPO法人制度に関する認知度が低いことから、さらなる周知を図る必要がある。									
今後の 取組み	・引き続き せていく。	設立相談会	会の開催等	を通じて、	NPO法人制	度の普及	啓発や法ノ	人への支援	を充実さ		

部局•室課	経営管理部学術振興課	班∙係	高等教育振興係
TEL(直通)	076-444-9652		

KPI番号	130											
KPI名	リカレント	リカレント教育(学び直し)に取り組む県内社会人の割合										
進捗状況	H29	Н30	(基準) R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100			
	-	-	40. 8%	42. 6%	45. 8%	40. 7%	34. 1%	43. 3%	78. 8%			
評価指標動 向の説明	は、前年度 ・また、取 「講習会、	・令和5年度県政世論調査の結果、リカレント教育(学び直し)に取り組む県内社会人の割合は、前年度に比べて6.6%減少した。 ・また、取組み方法で比較すると、「関係する本、雑誌、インターネット当で情報収集や学習」、「講習会、研修回答に参加し、情報収集や学習」、「会社の同僚や友人、知人と勉強会を開催し、情報収集や学習をしている」の順に割合が高かった。										
目標達成の 見通し	要努力											
目標達成の 見通しの 判断理由	•令和3年	・教育(学び 度から、リス !は「要努力	カレント教育	う(学び直し					にあること			
		・リカレント教育に取り組みたいという意思はあるが、県内にどういった学びの場があるか分からないため取り組めていない人が減るよう、情報提供の強化を図る必要がある。										
今後の取組み		連携を図り -開催の支持										

部局•室課	教育委員会 生涯学習·文化財室	班∙係	振興担当
TEL(直通)	076-444-3434		

KPI番号	131										
KPI名	県民カレ	県民カレッジ受講者数									
	H29	Н30	(基準) R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況	13, 079人	12,059人	11,277人	5, 386人	10,006人	10, 780人	11,364人	12,000人	94. 7%		
評価指標動 向の説明	供など、生 ・令和2年	・ライフステージに応じた多様な学習機会や学習情報の提供、学習相談や発表・交流の場の提供など、生涯学習環境整備の施策効果を測るもの。 ・令和2年度は新型コロナウイルスの影響により受講者が一旦半減したものの、その後は回復傾向にある。									
目標達成の 見通し	達成可能	Ė									
目標達成の 見通しの 判断理由		・これまで受講者の主流を占めていた高齢者に加えて、講座のオンライン配信や子供の受講料無料化などにより、新たな受講者層の開拓も徐々に進んでいることから、「達成可能」とした。									
目標達成に向けた課題	•一般社会	・一般社会人向け、子供向けなど、ターゲットを絞った講座内容を工夫する必要がある。									
今後の 取組み	•開催日時 す。	,受講方法	<b>去、講座内</b> 3	容を総合的	に考慮し、	受講対象を	を明確にし	た講座の開	問設を目指		

部局·室課	教育委員会 生涯学習·文化財室	班∙係	家庭成人教育担当
TEL(直通)	076-444-3435		

		1									
KPI番号	132										
KPI名	公民館( 加人数	公民館における地域課題の解決に向けた学びや自然体験・ふるさと学習への参加人数									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	-	-	9, 489人	4, 374人	5, 680人	8, 121人	5, 220人	8, 400人	62. 1%		
評価指標動 向の説明	・令和5年度より新事業となり、これまでの公民館活動への参加が自然体験活動からデジタルを活用した活動へと変化したこともあり、対面での参加人数は減少している。										
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	動を推進し	拠点とした している。 今 ながりを生む こ努める。	か和5年度よ	り新たにこ	れまでのな	公民館活動	」にデジタル	を取り入れ	1た多様な		
目標達成に向けた課題		<ul><li>・多様な形での参加ができるようになった反面、対面での参加人数は減少する可能性があるため、ハイブリッド形式での参加支援など、さらなる工夫が必要である。</li></ul>									
今後の取組み	域課題の	)情報発信 解決に向け 様な形で参	た学びの「	広がりや、	子どもたちの	のふるさとの	の学びや身	近な地域			

部局•室課	生活環境文化部・文化振興室	班∙係	文化政策課
TEL(直通)	076-444-3454		

KPI番号	133									
KPI名	県立美術的	県立美術館・高志の国文学館等の年間来館者数								
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
	1, 554, 01 2人	1, 172, 82 5人	918, 792 人	400, 514 人	559, 457 人	759, 257 人	1, 029, 63 7人	1, 000, 00 0人	103. 0%	
評価指標動 向の説明	・県立美術館等(富山県美術館、水墨美術館、立山博物館、高志の国文学館)の来館者数は、平成29年度の富山県美術館の開館により、来館者数は大幅に増加した。 ・新型コロナウイルスの影響により令和2年度から令和4年度の来館者数は大幅に減少したが、令和5年度は富山県美術館の魅力ある企画展の開催等により目標値を上回った。									
目標達成の 見通し	達成可能									
目標達成の 見通しの 判断理由	引き続き鬼いる。	引き続き魅力的な企画展やイベントを開催して誘客に努めることにより達成は可能と判断している。								
目標達成に向けた課題	に、各館や	各美術館等において、それぞれ話題性のある企画展等を開催し誘客に努めているが、今後更に、各館や関係機関が連携した、観光の視点も取り入れた誘客促進や、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた展示方法等を検討し、来館者数の確保に努めていく。								
今後の 取組み		美術館・博 - どもたちの					ノヨップ等を	開催するな	だ、次世	

部局•室課	生活環境文化部・文化振興室	班∙係	芸術振興課
TEL(直通)	076-444-3455		

KPI番号	134										
KPI名	富山県内	富山県内で行われる芸術文化活動の創造に参加する外国人アーティストの人数									
># 1h 1h 2m	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況	約460人	約460人	約530人	0人	20人	約320人	約210人	約600人	35. 0%		
評価指標動 向の説明	れている。 ・令和2,3 事業が多・ ・令和4年 芸術祭(P) ・令和5年	毎年、数多くの外国人アーティストが芸術文化活動の創造のため、富山県利賀芸術公園を訪れている。近年では、中国、韓国などのほか、東南アジア諸国からの参加者も多くなってきている。 令和2、3年度は、新型コロナの影響により、中止、または海外からの参加が不可能となった事業が多く、の外国人アーティスト数は大幅に減少した。令和4年度においても新型コロナウイルスの影響はあったが、「第4回とやま世界こども舞台芸術祭(PAT2022)」には海外からも多くの参加者があった。令和5年5月には、新型コロナが5類に移行し、芸術文化団体による国際交流事業もコロナ禍以前の状態に戻りつつある。									
目標達成の 見通し	達成可能	Ė									
目標達成の 見通しの 判断理由	・富山県利賀芸術公園での舞台芸術の創造活動や人材育成事業や、「とやま世界こども舞台芸術祭」、「世界ポスタートリエンナーレトヤマ」などに多くの外国人アーティストが参加している。 ・令和2、3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による影響により、実績は前年度を大きく下回ったが、令和4年度開催の「とやま世界こども舞台芸術祭2022」には海外からも多くの方が参加した。また、令和5年5月には、新型コロナの位置づけが5類に移行し、今後、県内芸術文化団体による国際交流事業が積極的に展開されることが期待できるため。 ・令和6年度は「世界ポスタートリエンナーレトヤマ」が開催され、多くの外国人アーティストの応募が想定される。										
目標達成に向けた課題		・特色ある国際文化イベントの開催や子どもたちの国内外との交流の充実等に取り組む必要がある。									
今後の取組み		スタートリエ と人が集う: を図る。									

部局•室課	自然保護課	班∙係	自然環境係
TEL(直通)	076-444-3396		

KPI番号	135									
KPI名	ライチョウ生息数(立山地域)									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
	-	-	-	-	324ऋ	-	-	295羽	109. 8%	
評価指標動 向の説明	・ハイマツ地帯への人の立入り規制、植生復元、環境浄化など生息環境の向上に努めた結果、R3年度調査による生息数は前回(H28)の295羽よりも多い324羽が確認された。(生息数調査は5年ごとに実施)									
目標達成の 見通し	既に達成	Ž.								
目標達成の 見通しの 判断理由		地帯への人 孫発に引き約								
		特に人的影響の高い立山においては、ライチョウへの保護活動は登山者のみならず旅行者に 対しても継続的な保護活動及び普及啓発が必要である。								
今後の 取組み		ドランティア るほか、上里								

部局•室課	自然保護課	班•係	自然環境係
TEL(直通)	076-444-3396		

KPI番号	136										
KPI名	外来植物除去活動参加者数(立山黒部アルペンルート沿線)										
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	529人	666人	563人	292人	488人	483人	635人	850人	74. 7%		
評価指標動 向の説明	山岳地での	山岳地での活動であり、参加者数は天候に左右されるため、バラツキが生じる。									
目標達成の 見通し	達成可能	Ė									
目標達成の 見通しの 判断理由	新型コロブ成可能と判	⁻ウイルス原 判断した。	感染症の5	類への移行	テに伴い活!	動回数の堆	曽加が見込	まれること	から、達		
目標達成に向けた課題	活動認知	活動認知度の向上と、受け皿となる指導者の資質向上									
今後の 取組み	活動を推済	なが、立山で 進する。また ことにより、	c、指導者	研修により	育成した指						

部局•室課	自然保護課	班•係	自然環境係
TEL(直通)	076-444-3396		

KPI番号	137										
KPI名	自然解訪	自然解説員(ナチュラリスト)認定者数									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	841人	841人	841人	892人	892人	892人	959人	950人	100. 9%		
評価指標動 向の説明	・ナチュラリ	・ナチュラリストは、3年に1回(近年:H29、R2、R5)養成しており、認定者は増加している。									
目標達成の 見通し	達成可能	r F									
目標達成の 見通しの 判断理由	・ナチュラリ	リストにつし	いては、概ね	a、募集を <sub>-</sub>	上回る応募	があるため	)、達成可能	能と判断しな	t=.		
目標達成に向けた課題	・ナチュラリ	・ナチュラリスト制度について、各種媒体を活用し、さらなる周知を図る必要がある。									
今後の 取組み	・HPや広幸	<b>报誌、SNS</b> €	等により、制	度の周知	を図り、ナー	チュラリスト	- -の着実な <b>勃</b>	養成を目指	ॱॖऺ॔॓		

部局·室課	自然保護課	班•係	自然環境係
TEL(直通)	076-444-3396		

KPI番号	138										
KPI名	狩猟免許所持者数										
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	1, 296人	1, 304人	1, 365人	1, 406人	1, 402人	1, 420人	1, 427人	1, 550人	92. 1%		
評価指標動 向の説明	・近年、狩	・近年、狩猟免許を更新しない人数以上に狩猟免許試験受験者数が増加している。									
目標達成の 見通し	達成可能	Ė.									
目標達成の 見通しの 判断理由	·担い手 <i>の</i>	)確保∙育成	対策により	り免許所持	者数が増加	叩しており遠	を成可能と	判断した。			
		・若手の担い手、特に銃猟免許所持者の高齢化が顕著であり、狩猟について若い人達に興味 を持ってもらう等、普及啓発が必要である。									
今後の 取組み	習」に果か	が実施して ゝら補助する 者の確保を	らとともに、								

部局•室課	生活環境文化部環境保全課	班∙係	指導係
TEL(直通)	076-444-3144		

KPI番号	139										
KPI名	大気及び	大気及び水質に係る環境基準の達成率									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	大気100% 水質100%	大気100% 水質100%	大気100% 水質100%	大気100% 水質100%	大気100% 水質100%	大気100% 水質100%	大気100% 水質100%	大気100% 水質100%	100%		
評価指標動 向の説明	<ul><li>全ての測</li></ul>	・全ての測定局・調査地点で環境基準を達成、維持している。									
目標達成の 見通し	達成可能	Ė									
目標達成の 見通しの 判断理由	響が大きし	いものの、耳	見時点で大	気・水質と	も目標を達	成、維持で	きているこ	ど自然的弱 とから、引 こより、達成	き続き個		
目標達成に向けた課題	の推進なる 策を着実し め、環境監	・一時的に高濃度になる光化学オキシダントへの対応やカーボンニュートラルにも資する取組の推進など、大気環境行政を取り巻く課題に適切に対応するため、大気環境計画に掲げる施策を着実に推進する必要がある。また、良好な水環境の維持や水環境保全活動の活性化のため、環境監視や発生源対策、県民等による自主的な環境保全活動の促進などの水質環境計画に掲げる施策を引き続き推進する必要がある。									
今後の取組み	自主的な理	環境保全活	動の促進	などに取り	組むとともに	こ、経済社	会情勢の変	対策、県民 変化や環境 「検討する。	に関する		

部局•室課	生活環境文化部環境保全課	班∙係	指導係
TEL(直通)	076-444-3144		

KPI番号	140										
KPI名	環境保全	環境保全活動への取組み者数(川や海の環境観察会等への参加者数)									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	ı	3,677 人	4, 156 人	1,417 人	2,076 人	2,946 人	3,914 人	5,000 人	78. 3%		
評価指標動 向の説明	組み者数の	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による活動の機会の減少により、一時的に取組み者数の減少が見られたが、感染防止に努めながら、地域における環境保全活動の機会の創出等に取り組み、活動の拡大を図った。									
目標達成の 見通し	達成可能	Ė									
目標達成の 見通しの 判断理由	図ってきて	ナウイルス こおり、引き E体の連携	続き地域に	おける環境	竟保全活動	の機会の	創出、継続				
目標達成に向けた課題	・SDGs未来都市として「清らかな水の循環の創造」を実現するうえで、県民総参加の水環境保全活動をさらに促進する必要があることから、若者・子どもの活動参加を促すなど、引き続き新たに活動に取り組む人材を育成する取組みを推進する必要がある。										
今後の 取組み	るため、小による普及	水循環の創 学生を対象 な啓発などし 的な参加を	象とした環 <sup>は</sup> こより、環 <sup>は</sup>	竟観察会の 竟保全意識	開催や環	境フェアでの	の体験学習	、県X(旧)	ソイッター)		

部局•室課	生活環境文化部環境政策課	班∙係	企画係
TEL(直通)	076-444-3141		

KPI番号	141									
KPI名	環境美化	環境美化活動参加者数								
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
	11万人	13万人	13万人	1. 7万人	2. 4万人	11万人	11万人	13万人 以上	84. 6%	
評価指標動 向の説明	が、R4から	・R2、3は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で多くの清掃イベントが中止・縮小等になったが、R4からは感染症拡大に留意しつつ、清掃イベントが再開されはじめたため、清掃イベントへの参加人数はコロナ前の水準に戻りつつある。								
目標達成の 見通し	達成可能	E E								
目標達成の 見通しの 判断理由	展開、県内	のH30、R1 内企業・団体 合い活動の	*等が参加	する「とやる	ま海ごみボ	ランティア	邹(R4.7設3	な)」を軸と		
目標達成に向けた課題	特になし	特になし								
今後の 取組み		ごみボラン 加者数の <sup>均</sup>			の企業・団体	本等の参加	で促進し、	清掃活動の	の活性化	

部局•室課	生活環境文化部環境保全課	班∙係	指導係
TEL(直通)	076-444-3144		

KPI番号	142										
KPI名	地下水揚	地下水揚水量の適正確保率									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%		
評価指標動 向の説明	・地下水揚水量は、富山県地下水の採取に関する条例対象地域における地下水区ごとの適正 揚水量の範囲内を維持している。										
目標達成の 見通し	達成可能	Ė Ė									
目標達成の 見通しの 判断理由		引水量は気 保全・適正:									
目標達成に向けた課題	下注意報を 幅な低下が	・R3年1、2月の大雪では、消雪設備の一斉稼働により大幅に地下水位が低下し、地下水位低下注意報を富山市に発令するなどしており、今後も降雪時には、市街地等では地下水位の大幅な低下が懸念されることから、地下水障害の未然防止のため、引き続き冬期間の地下水位低下対策を推進していく必要がある。									
今後の 取組み		)大幅な地 <sup>-</sup> 対策や地下									

部局·室課	建築住宅課	班•係	建築指導係
TEL(直通)	076-444-3356		

KPI番号	143										
KPI名	住宅の耐	住宅の耐震化率									
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況	78. 8%	80. 4%	81.8%	83. 1%	84. 5%	85. 6%	87. 3%	88. 6%	98. 5%		
評価指標動 向の説明	・実績値 ・それ以 H29 78 R4 85.5	徐々に実績は上がってきているが、全国の値(H30:87%)は下回っている。  •実績値:H25 約72.3%、H30 約80.4%、目標値:R7 約90%  •それ以外の年度は全てこれらからの線形補間を掛けた値 H29 78.78%→78.8%、R1 81.77%→81.8%、R2 83.14%→83.1%、R3 84.51%→84.5%、R4 85.59%→85.6%、R5 87.26%→87.3%、R6 88.63%→88.6%  •達成率は87.26/88.63=98.45→98.5%									
目標達成の 見通し	達成可能	Ė									
目標達成の 見通しの 判断理由	り、現在の しかし、令 まってき いる。 一方、物値 控えられる	令和3年3月19日に閣議決定された住生活基本計画等によれば、全国の耐震化率は87%であり、現在の当県の状態は十分とは言えない。 しかし、令和6年1月1日に発生した能登半島地震により、耐震化に関する住民意識は急速に高まってきており、この需要を事業実施につなげることができれば、目標は達成可能となってきている。 一方、物価高騰の影響で、耐震化率の向上に影響する建替え・耐震改修等の工事が今後差し控えられる状況となることも十分に考えられる。 今後とも事業推進に向けて一層の努力が必要である。									
目標達成に向けた課題	さらなる普	及啓発の引	蛍化を図る	必要がある	, ,						
今後の取組み	層の普及を これまでも 補助制度を か調査検討 さらに、耐	啓発の強化 部分改修、 を創設した 討を進める 震化の趣旨	に努めたし 簡易改修 りと、一層の 必要がある でないまえ、	等の補助 <i>&gt;</i> の利用促進	にューを増 を図ってき ものだけで	曽やしたり、 たが、より なく、危険ス	今年度より 効果的な補 なブロック場	り耐震改修 対助等の手 昇等の除却	設計への 法がない		

部局•室課	土木部 建築住宅課	班∙係	住みよいまちづくり係
TEL(直通)	076-444-3357		

KPI番号	144										
KPI名	高齢者が	高齢者が居住する住宅のバリアフリー化率									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	47%	47%	48%	48%	49%	49%	50%	69%	73%		
評価指標動 向の説明	徐々に実績は上がってきており、全国の値(H30:42.4%)を上回っている。 ・実績値:H25 約46%、H30 約47%、目標値:R8 75% ・それ以外の年度は全てこれらからの線形補間を掛けた値 H28 46.7%→47%、H29 47.1→47%、R1 47.9%→48%、R2 48.3%→48%、R3 48.7%→49% R4 49.1%→49%、R5 49.5%→50%、R6 68.1%→69% ・達成率は49.5/68.1=72.7→72%										
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	(全国3位) 住宅改善	手住宅・土地 となり高い 支援事業費 つれるが、3	水準である	る。また、高 が利用されて	齢者が居代 におり、住宅	住する既存 Eのバリアフ	住宅では「 フリー化の(	高齢者が作 足進は順調	住みよい		
目標達成に向けた課題	普及啓発	普及啓発を継続する必要がある。									
今後の 取組み	支援制度	を活用して	もらうため、	普及啓発	活動を継続	まする必要が	がある。				

部局•室課	生活環境文化部 県民生活課	班∙係	県民協働係
TEL(直通)	076-444-9012		

KPI番号	145										
KPI名	地域活動	地域活動に参加している人の割合									
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況	55. 0%	57. 2%	56. 7%	62. 9%	58. 8%	58. 6%	62. 90%	70. 0%	89. 9%		
評価指標動 向の説明	・本県の地	・本県の地域活動に参加している人の割合は、近年横ばい傾向にある。									
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由		活動に参加要努力とし		の割合は	横ばい傾向	『にあり、目	標の70.0%	には一度も	達してい		
目標達成に向けた課題		・ボランティアの高齢化・固定化の傾向が見られるため、学生、若者、勤労者、熟年世代などへ 広く県民のボランティア活動参加を働きかけていくことが必要である。									
今後の 取組み		、令和6年			んだ事業を	着実に推進	進していくと	ともに、国	、市町村、		

部局•室課	農林水産部農産食品課	班∙係	食品安全係
TEL(直通)	076-444-3944		

KPI番号	146										
KPI名	食品表示	食品表示が適正な店舗の割合									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	97. 2%	95. 1%	96. 7%	97. 4%	98. 1%	97. 2%	96. 9%	100% (R8)	96. 9%		
評価指標動 向の説明	毎年の調査で、十分でない表示の事例が認められているものの、原因の大半は軽微な確認ミスによるものであり、指導により早期改善が図られている。また、適正な店舗の割合は高い数値を維持しており、食品関連事業者の食品表示制度への高い意識が認められている。										
目標達成の 見通し	達成可能	Ė									
目標達成の 見通しの 判断理由	229人)を信	事業者の食 足すとともに 食品表示/	食品表示	ウオッチャ	一による小	売店の実施	態調査を通	じた改善指			
目標達成に向けた課題	食品表示法に基づく食品表示制度は、消費者の多様なニーズへの対応や諸外国の表示制度 との整合性を取る観点等から継続的に改正が行われており、適宜、改正に合わせた周知・徹底 を実施する必要である。										
今後の 取組み	安心情報	「食品表示 HP」におけ 指導徹底を 表示制度の	る情報提供 ·図っていく	t、各種講習。 。また、消費	習会の開催 費者に対す	や各種研	修会への請	師派遣な	どにより適		

部局•室課	農林水産部農林水産企画課	班∙係	企画係
TEL(直通)	076-444-9622		

KPI番号	147										
KPI名	学校給食	学校給食で年間に提供した野菜、果物等に占める県産食材の活用割合									
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況	21. 6%	20. 7%	26. 0%	25. 1%	24. 9%	23. 4%	23. 1%	32. 0% (R8)	72. 2%		
評価指標動 向の説明	産者の減	・市町村における地場産食材活用の取組みが進んでいる一方で、気象の影響による不作や生産者の減少、物価高騰による価格が高い食材の活用量減等により、野菜、果物等の県産食材の活用割合は、横ばいとなっている。									
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由		比較して、 句け「要努:			は増加して	いるが、近	£年減少傾	向にあるこ	とから、目		
目標達成に向けた課題		・気候条件や生産者の減少等によって供給量が落ち込んだ場合でも、広域的に安定して供給できる体制が必要である。									
今後の 取組み		またるコー えた活用も					跟共有∙連持	携強化を図	19、市町		

部局•室課	農林水産部農林水産企画課	班∙係	企画係
TEL(直通)	076-444-3368		

KPI番号	148										
KPI名	カロリー・	カロリーやバランスを考えて食事する県民の割合									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	72%	60%	61%	57%	59%	54%	59%	70%以上 (R8)	85. 1%		
評価指標動 向の説明	ているが、 験や調理! 施すること	・県民の食育に対する関心は高まっており、食生活の改善を実践している県民の割合は増加しているが、令和2~4年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、農林漁業体験や調理実習等で中止や規模縮小を余儀なくされたものもあり、食育啓発活動を計画通りに実施することができなかったことなどの影響がある。 ・令和5年度は食育推進全国大会を開催する等、従前の食育啓発活動が再開されてきている。									
目標達成の 見通し	達成可能	Ė									
目標達成の 見通しの 判断理由	てきた結果	食生活」なる 限、9割以上 能と考える。	の県民が								
目標達成に向けた課題	帯、高齢者 ある。 ・食育に対	代のカロリ 香世帯など、 けする意識の 現在の生活	、様々なラー の低い層に	イフスタイルも関心を持	いに対応した	に取り組み ため、デジ	やすい食育 タル技術を	育を推進する	る必要が		
今後の 取組み	講座等の	3月に策定し ライフステ- こ食育の推	-ジに応じた	と食育の啓	発活動を終						

部局•室課	農林水産部農産食品課	班∙係	食品産業・流通係
TEL(直通)	076-444-3282		

KPI番号	149										
KPI名	県民1人	県民1人1日当たりの食品ロス発生量									
	(基準) H29	Н30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況	約110g (H28)	-	-	-	-	約85g	_	2030年ま での半減 を目指し て減少 せる。	_		
評価指標動 向の説明	本県の県民1人1日当たりの食品ロス発生量は順調に減少している。国が推計した国民1人1日当たりの食品ロス量は約103g(R4)であり、本県のほうが少ない。全国の国民一人当たりの食品ロス発生量は漸減している。										
目標達成の 見通し	達成可能	S S S S S S S S S S S S S S S S S S S									
目標達成の 見通しの 判断理由	ス問題に関 の割合も( 断した。	関する認知	度は、(H28 6から(R5)	8)64.1%か 88.6%に増	ら(R5)90. 加している	1%に増加 ことから、	し、食品ロ 目標は「達	調査における削減に取成可能」で	り組む人		
目標達成に向けた課題	またフード		体で考えて					図る必要が -体となって			
今後の取組み	3015運動、		イブ・フード					と食べきりを 印度の向上			

部局•室課	危機管理局 防災·危機管理課	班∙係	危機管理係
TEL(直通)	076-444-9670		

KPI番号	150										
KPI名	自主防災	自主防災組織の組織率									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	79. 0%	79. 6%	85. 7%	86. 4%	88. 2%	88. 4%	89. 1%	89. 0% (R8 90%)	99. 0% (R8)		
評価指標動 向の説明	の推移に	自主防災組織の組織率(全世帯数に占める自主防災組織に加入している世帯の割合)の近年の推移については、順調に向上し、最新のデータである令和6年4月時点で89.4%となっており、R6目標値は既に達成している。また、全国平均85.4%(R5)を上回っている。									
目標達成の 見通し	既に達成	ţ									
目標達成の 見通しの 判断理由	令和5年4	月時点で目	自主防災組	織の組織	率が目標値	重を上回っ <i>た</i>	<i>:t</i> :め。				
		自主防災組織の組織率が全国平均を上回っているものの、組織率が低い状況となっている地域もあることから、引き続き、市町村と連携して組織率の向上に取り組む必要がある。									
今後の 取組み	地区防災	どによる自: 計画を作成 を行うなど、	した自主防	5災組織の	避難訓練や	や避難所開	設・運営訓	練などに要	要する経費		

部局·室課	土木部建設技術企画課	班•係	企画調整係
TEL(直通)	076-444-3104		

KPI番号	151										
KPI名		公共土木施設における長寿命化計画の見直し数(公共土木施設における長寿命化計画の策定数)									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	2計画 (6計画)	2計画 (6計画)	4計画 (12計画)	4計画 (12計画)	4計画 (12計画)	4計画 (12計画)	7計画 (12計画)	12計画 (12計画)	58. 3%		
評価指標動 向の説明	(砂防設備 構造物)、	R1までに、橋梁、都市公園、下水道施設、水門等の河川管理施設、港湾施設、砂防関連施設 (砂防設備、地すべり防止施設、急傾斜崩壊防止施設)、ダム(機械設備、電気通信設備、土木 構造物)、海岸保全施設において、長寿命化計画を策定し、必要に応じて長寿命化計画の見直 しを実施している。									
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	目標(R6) 努力と判断	12計画に対 新した。	がし、R5時点	気で7計画る	上、今後1年	₣間で5計画	画を見直す	必要がある	ため、要		
目標達成に向けた課題	災害復旧	災害復旧関連業務との進捗調整									
今後の 取組み		その機能を るとともに、									

部局•室課	土木部河川課	班•係	計画係
TEL(直通)	076-444-3325		

KPI番号	152										
KPI名	河川整備	河川整備延長									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	420.8km	421.5km	421.9km	422. 9km	424.1km	425. 2km	425. 8km	426km	99. 95%		
評価指標動 向の説明		受水被害解消のため、近年浸水被害が発生している河川において、治水上ネックとなっている 箇所等へ集中投資を行っており、着実に整備が進んでいる。									
目標達成の 見通し	達成可能	Š									
目標達成の 見通しの 判断理由	必要箇所! 断した。	こ集中投資	を行いつつ	つ、計画的I	こ河川改修	を進めてい	いることから	。、「達成可	能」と判		
目標達成に向けた課題	があった江	過去に大きな浸水被害が発生した河川や、近年、局地的な集中豪雨等により住宅等への被害 があった河川などにおいて、重点的に事業費を配分して計画的な整備を行い、治水対策を着実 に進める必要がある。									
今後の 取組み		きな浸水被 可川などにな							への被害		

部局•室課	土木部·砂防課	班∙係	砂防係
TEL(直通)	076-444-3342		

KPI番号	153										
KPI名	土砂災害	土砂災害危険箇所の整備箇所数									
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	613箇所	623箇所	627箇所	631箇所	636箇所	638箇所	648箇所	660箇所	96. 7%		
評価指標動 向の説明	年度毎の	年度毎の整備箇所数には幅があるものの、整備箇所数は着実に増加している。									
目標達成の見通し	達成可能	達成可能									
目標達成の 見通しの 判断理由	今後も着い	実に整備を	実施するこ	ととしてお	り、「達成豆	「能」である	と判断した	• 0			
目標達成に向けた課題	着実な整体	備を実施す	るために必	必要な予算(	の確保に努	₹める必要7	がある。				
今後の 取組み	土砂災害	危険箇所 <i>σ</i>	)整備に必	要な予算 <i>の</i>	)確保に努	め、着実に	整備を実施	もする。			

部局•室課	警察本部警務部警務課	班∙係	企画調整第二係
TEL(直通)	076-441-2211		

KPI番号	154										
KPI名	犯罪発生	犯罪発生率(人口1万人当たりの刑法犯認知件数)									
進捗状況	H29	Н30	(基準) R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	50. 2件	45.9件	42.9件	43. 5件	43.9件	38.3件	44. 3件	40. 9件	-		
評価指標動 向の説明	刑法犯認知件数は、平成13年の17,660件をピークに減少し、令和4年に戦後最少値3,929件を記録した。 しかし、令和5年は4,501件と令和4年から572件増加し、さらに令和6年7月末時点においても令和5年の同時期と比較して増加傾向にある。										
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由		認知件数必要である		5年から	増加傾向	にあり、E	目標達成(	こ向けたる	さらなる		
目標達成に向けた課題	している	盗、車上 ことに加え への対応か	、特殊討	「欺、ストー							
今後の取組み	害に遭れまた、国	欺やSNS つないため 自転車盗な 一ンやカ	の広報語などの無力	各発活動( 施錠被害	の推進、関 が高水準	関係機関。 で推移し	との連携I ているこ	こ努める。 とから、カ	ギかけ		

部局·室課	警察本部警務部警務課	班∙係	企画調整第二係
TEL(直通)	076-441-2211		

KPI番号	155										
KPI名	交通人身	· 交通人身事故の発生件数(死者数)									
進捗状況	H29	Н30	(基準) R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
	3, 238件 (37人)	2, 839件 (54人)	2, 353件 (34人)	1,992件 (26人)	1, 971件 (29人)	1, 953件 (34人)	1,878件 (31人)	平成以降 最少水準 の定着を 目指す			
評価指標動 向の説明	死者数は3年ぶりに前年より減少した。また、高齢者を重点とした総合的な交通事故防止対策 を推進した結果、交通事故発生件数及び負傷者数は、23年連続で減少した。										
目標達成の 見通し	達成可能	Ė									
目標達成の 見通しの 判断理由	境の整備	及び交通事	故防止に	者数)の更 資する交通 死者数も3	指導取締	/等の推進	を図った結	果、交通人	人身事故		
目標達成に向けた課題	死亡事故(	死者数に占める高齢者の割合が約6割と、依然として高い水準にあるほか、飲酒運転による 死亡事故の発生や自転車事故、横断歩道上の交通事故が前年より増加するなど、悲惨な交通 事故から県民を守るためには、これら交通事故情勢に応じた的確な対策を推進することが重要 である。									
今後の 取組み	関係機関でいく。	∮・団体と連	携を図り、	交通事故(	青勢を踏ま	えた総合的	かな交通事	故防止対策	きを推進し		

部局•室課	地方創生局ワンチームとやま推進室	班∙係	中山間地域対策課中山間地域対策担当
TEL(直通)	076-444-9607		

KPI番号	156									
KPI名	中山間地域における地域運営組織数									
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
進捗状況	12組織	15組織	48組織	57組織	61組織	67組織	73組織	60組織	121. 7%	
評価指標動 向の説明	令和元年度は、南砺市が小規模多機能自治の取組みを推進し、南砺市のみで28組織が形成され、地域運営組織数が大きく増加した。令和5年度は、富山市等で計5地域が形成され、目標値を達成した。									
目標達成の 見通し	既に達成	Ì.								
目標達成の 見通しの 判断理由	いる。近年	度までに、魚 E、高岡市ヤ を達成した。	5氷見市、							
目標達成に向けた課題										
今後の 取組み		域「話し合し 也域運営組				プランの作	作成等の支	援を行い、	市町村と	

部局•室課	農林水産部・農村振興課	班∙係	都市農村交流係
TEL(直通)	076-444-3380		

KPI番号	157										
KPI名	農林漁業	農林漁業等体験者数(延べ人数)									
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100		
進捗状況    -	67, 003人	68, 199人	70,005人	20,850人	30,816人	39, 206人	R6年内 公表見込	74, 200人 (R8)	-		
評価指標動 向の説明	低い水準I ていること	新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、農林漁業等体験者数はコロナ前と比較して 低い水準にあるものの、ウィズコロナに伴う生活様式(テレワークやワーケーション等)が浸透し ていることや、都市住民の農村との交流に係るニーズが増大していることを背景に、今後も関 係人口の増加が見込まれる。									
目標達成の 見通し	要努力										
目標達成の 見通しの 判断理由	新型コロナ 被害を受け と考えられ	ナ禍で落ち 一の影響が ナた者もおり るため、目 いく必要か	残る結果と り、都市と別  標達成の2	:なっている 豊村の交流 ためには今	。また、コン がコロナ前 後も若者等	ンテンツ提付 の水準に	共者の中に 回復するに	は 能 登半 は まだ時間	島地震で 引を要する		
	透している村地域に	体験者数を増加させるため、テレワークやワーケーションなどのウィズコロナの生活様式が浸透していることや、都市住民の農村との交流に係るニーズが増大していることに着目し、農山漁村地域における都市部の若者の受入れや地域づくりの担い手確保、移住・定住促進の取組みを支援することが重要である。									
今後の取組み	タイルの多関係人口の都市農村でアンバサダ	農塾や農村 り様化に即り の拡大を目 交流事して で一」との薄 とんだ関係	した新たな 指す。 )情報を一: 任命する大 なかった県内	交流スタイ 元化し発信 学生等の 内外の若者	ルの確立や するプラッ 若者による 等をターケ	や都市農村 トフォームの 事業の企画	交流推進 の構築、「富 画提案など	対策を講じ 国山県都市 、これまで	、引き続き 農村交流 都市農村		

部局•室課	厚生部・厚生企画課	班∙係	地域共生福祉係
TEL(直通)	076-444-3197		

KPI番号	158									
KPI名	中山間地	中山間地域におけるケアネット活動の取組地区数								
	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4	R5 (A)	(目標) R6(B)	A/B×100	
進捗状況	118	118	117	117	117	118	118	132	89. 4%	
評価指標動 向の説明	8割を超え	3割を超える地区で取組みが実施されているが、近年は伸び悩んでいる。								
目標達成の 見通し	要努力									
目標達成の 見通しの 判断理由	いとなって	制度の拡充 おり、県社 かける必要	協を通じて							
目標達成に向けた課題	町村社協	市町村社協や地区社協によってケアネット活動に対する理解や取組みに差があることから、市町村社協担当職員研修会の開催やアドバイザーの派遣などにより職員の資質向上やノウハウの蓄積を図っていく必要がある。								
		地域運営約 ハてケアネ <sup>、</sup>					援を継続す	るとともに	、全ての	